

修正対比表

項目	第6回審議会時	修正案
4ページ 第3章 1(1) 望ましい学校規模	<p>オ 中学校においては、免許外教科担任制度を活用する必要がなくなり、専門的な指導を受けることができる。</p> <p>カ 児童生徒数や教員数が多くなりすぎないため、児童生徒同士や教員との関係性が築きやすく、また、学校施設の使用に制限なく教育を実施できる。</p>	<p>オ <u>同学年に複数の教員が配置できることから、学年担任制や教科担任制など、さまざまな指導方法の工夫がしやすい。</u></p> <p>カ 中学校においては、免許外教科担任制度を活用する必要がなくなり、専門的な指導を受けることができる。</p> <p>キ 児童生徒数や教員数が多くなりすぎないため、児童生徒同士や教員との関係性が築きやすく、また、学校施設の使用に制限なく教育を実施できる。</p>
6ページ 第3章 2(1) 検討の基準	<p>ア 小規模校について</p> <p>川西市の将来人口推計から考えると、今後、小規模校はより小規模化が進むと予測され、また全体に占めるその割合も増加する可能性があります。</p> <p>今後、継続して学年が単学級となった場合は、教育委員会が地域や保護者との情報共有の場を持ちます。そのうえで、より良い教育環境をめざし、望ましい学校規模を実現するため、統合を含めて話し合いを進めていきます。</p>	<p>ア 小規模校について</p> <p>川西市の将来人口推計から考えると、今後、小規模校はより小規模化が進むと予測され、また全体に占めるその割合も増加する可能性があります。</p> <p>今後、継続して学年が単学級となった場合は、教育委員会が地域や保護者との情報共有の場を持ちます。そのうえで、より良い教育環境をめざし、望ましい学校規模を実現するため、統合を含めて話し合いを進めていきます。</p> <p><u>なお、継続して学年が単学級となっていない小規模校においても、各学校は学校行事や指導方法を工夫するなど、より良い教育環境となるように努めます。</u></p>
6ページ 第3章 2(1) 検討の基準	<p>イ 大規模校について</p> <p>川西市の将来人口推計から考えると、今後、大規模校においても児童生徒数は減少することが予測されるため、望ましい学校規模を実現するための方策については検討せず、長期的な視野に立って学校運営の状況を<u>注視してまいります。</u></p>	<p>イ 大規模校について</p> <p>川西市の将来人口推計から考えると、今後、大規模校においても児童生徒数は減少することが予測されるため、望ましい学校規模を実現するための方策については検討せず、長期的な視野に立って、学校運営の状況を<u>注視しつつ、各学校は状況に応じた取組みを行います。</u></p>
8ページ 第3章 2(3) 特色のある教育	<p>イ インクルーシブ教育</p> <p>人間の多様性を尊重し、国籍や人種、言語、性差、障がいの有無にかかわらず、すべての子どもたちがともに学び、ともに育つ、共生社会の実現をめざす教育です。配慮や支援が必要な児童生徒に対して、本人の希望や特性に応じて必要な支援を行います。</p> <p>(以下省略)</p>	<p>イ インクルーシブ教育</p> <p>人間の多様性を尊重し、国籍や人種、言語、性差、障がいの有無<u>等</u>にかかわらず、すべての子どもたちがともに学び、ともに育つ、共生社会の実現をめざす教育です。配慮や支援が必要な児童生徒に対して、本人の希望や特性に応じて必要な支援を行います。</p> <p>(以下省略)</p>
8ページ 第3章 2(4) 望ましい学校規模に向けた留意事項	<p>ウ 登下校の<u>安全</u>について</p> <p>統合等により、<u>登下校の距離が伸びる場合には、</u>通学路の安全点検や安全対策を行うとともに、登下校時の危険<u>場所</u>や交通ルールの確認など、安全教育を充実させます。</p>	<p>ウ 登下校について</p> <p>統合等によって<u>通学距離や通学時間の負担が増える場合は、公共交通機関等の利用など、通学手段について柔軟に検討します。</u>また、通学路の安全点検や安全対策を行うとともに、登下校時の危険<u>箇所</u>や交通ルールの確認など、安全教育を充実させます。</p>
9ページ 第3章 2(4) 望ましい学校規模に向けた留意事項	<p>カ 跡地の利用について</p> <p>統合等を検討する際には、<u>市長部局とも連携し、地域住民との整理をふまえ、地域にとってより良い跡地の有効活用について丁寧に話し合いを進めていきます。</u></p>	<p>カ 跡地の利用について</p> <p>統合等を検討する際、<u>跡地の利用については、市長事務部局に対して、これからのまちづくりにとって有効な活用方法となるよう、地域住民と丁寧に話し合いを進めていくことを求めています。</u></p>